教育センター学びの丘研修員研修における学びについて

和歌山市立砂山小学校
教諭　東　　翔　子

和歌山県教育センター学びの丘における研修員研修で，修養や研究を通し，教員としての資質・能力の向上を目指してきた。その１年間の学びについて述べる。

修養では，様々な研修講座や研修員研修を，これまでの自身の教育活動を振り返りながら受講することで，多くの指導方法や技術を学び直すことができ，自己の専門性を高めることができた。また，所属校におけるミドルリーダーとしての自身の役割について考えるとともに，現状の課題について教職員の共通理解を図った上で，学校全体の取組として新しいことに挑戦することが大切であることを学んだ。

研究では，自身のこれまでの授業における課題を振り返り，算数科に対して苦手意識をもっている児童も図や式など数学的な表現を用いて自分の考えをかくことができるようにしたいと考えた。そこで，授業のユニバーサルデザインの考えを取り入れたり，見通したことを確認する段階と考えを再整理する段階を設けたりして授業づくりを行った。また，改めて教科書の分析を行うことで，教科書が自らの理解の状況を振り返る材料になることを児童に意識させることができた。

今後も，研究したことを生かし自身の授業力向上に向けて日々励むことや，ミドルリーダーとしての自覚をもち主体的に行動すること等，１年間の学びを学校や地域に貢献できるように努めたい。